

愛育ながさき

Ai-iku-Nagasaki 55号

発行所/一般社団法人長崎県手をつなぐ育成会
発行者/竹内隆伯 発行日/令和5年1月12日
〒852-8104 長崎市茂里町3-24
長崎県総合福祉センター県棟4F 408号
Tel:095-846-8730/Fax:095-846-8738
E-mail:info@ikusei-nagasaki.jp

ながさき育成会フォーラム 育成会全国大会 in 福井

権利擁護セミナー
事業所協議会発足
全国啓発キャラバン隊研修会

長崎市 金毘羅山からの眺め

令和4年度 ながさき育成会フォーラム が開催されました!!

令和4年10月14日(土) 長崎県総合福祉センター5階 大会議室

テーマⅠ 講演「～法制度のうごき・全育連のうごき～」

with コロナの時代にあっても取り組む必要がある育成会活動のあり方」

講師 全国育成会連合会 専務理事 田中 正博氏

会員研修の場としての育成会フォーラムですが、今年度は、法制度の動きと全国育成会連合会の動向についての講演をいただきました。

今年は国の社会保険審議会障害者部会(全育連からも代表が出席)において、障害者総合支援法・児童福祉法の改正について議論され、令和6年4月からの法改正がほぼ決定したようです。合わせて報酬改定の時期にもあたり、法改正と報酬改定が一緒に実施されることになりました。

まず、障害児支援については、自己肯定感、達成感、仲間形成、孤立の防止など、現代の障害のある子どもたちの抱える課題をより専門性の高い支援でカバーする内容を、児童発達支援や放課後デイサービスなどの事業に反映すること。



田中 正博 全育連専務理事

次に、障害のある方たちの居住支援については、重度(高齢)障害者に対応できる日中支援型グループホーム(以下 GH)の課題の検討。医療的ケアや強度行動障害、高次脳機能障害、高齢化など特別な整備が必要なGHについて、そして自立を目指す人たちのための「通過型 GH」の制度化等、様々な法改定が予想されるようです。

また、相談支援については、基幹相談支援センターの設置を努力義務化し、数多くある機能を整理しわかりやすく提示すること。現状、つながりが強いとは言えない医療や介護保険などとの連携の在り方も検討されるようです。

就労支援については、福祉就労サービスの利用を希望する人のためのアセスメント制度の改正や、企業就労していても就労系福祉サービスを利用できるようになること。介助を要する重度者の通勤等における支援についての検討など、具体的な改正の内容があがっています。さらに、障害福祉分野におけるICT活用やロボット導入についても多くの提案があるようです。

そして成年後見制度については、全育連の久保会長が参加される「成年後見制度利用促進専門家会議」で、知的障害分野で利用が進まない背景を説明し、民法改正まで含めた提言をすすめました。

一方、新しい時代の育成会活動については、情報誌「手をつなぐ」のあり方、「全国大会」のあり方、「規程類整備」のあり方、「財政基盤安定」のあり方の4点をテーマに各プロジェクトチームで協議し取りまとめることになりました。

「手をつなぐ」は会員から寄せられた声を今まで以上に反映させた冊子の充実と、印刷業務の入札化により経費削減を両立する観点で全面的な見直し。また「手をつなぐ」を含め全育連の刊行図書を全国各地の図書館へ収蔵していただく取り組みを進めるため、会員に図書館へのリクエストをしてもらうなど頒布促進の協力を仰ぐ。

「全国大会のあり方」としては、従来通りの毎年開催を基本としつつ、正会員の意見を受け引き続き検討していく。「規程類の整備」については職員採用や労務管理、財務経理規程を整備しており、今後も職務分掌、決済など各種規程を順次整備すること。「財政基盤安定」についても正会員からの分担金のあり方について等、十分に意見交換を重ねながら新しいあり方を検討することなど、今後の方向性に私たちも注目していきたいものです。(谷)

テーマⅡ みんなで考えましょう 育成会の課題とこれからの活動

「高齢化に向けて」「次世代につなげる取り組み」意見交換会

二部ではまず、障害のあるご本人、そして家族も高齢化する中、何をすべきなのかといったテーマに取り組んだ富山市育成会の勉強会「松の木プロジェクト」が紹介されました。社会・親・本人の現実を踏まえ、親自身の気持ちを客観視することで、漠然とした不安を解消するために必要なことを仲間と学んでいくこのプロジェクトには、多くの方が頷き、共感していたようです。



また、育成会の歴史を振り返ることで、知的障害や発達障害の当事者団体として多くの制度や法律を作る運動をしてきたこと、国の社会保障審議会から相談を受け、政策提言や要望活動をしていることなど、時代が変わっても育成会として大切にすべき活動の原点を再認識しました。

一方で、会員減少に加え若い世代の加入が少ないといった課題には、時代に合わせ、地域社会や人々のニーズ、制度の変化をしっかりとらえて新しいものを取り込んでいく柔軟な考え方も必要とされているようです。

講演後、グループに分かれて「今後の地域育成会のやるべきこと」について、グループワークを行いました。各グループともそれぞれの育成会の抱える課題について話し合い、活発な意見交換がなされていました。

育成会フォーラムに参加して

今、当ホームでも大きな課題の一つでもある、「高齢化」の話が今回行われ、意見交換会も行われました。

研修内容は、ご家族が断腸の思いでグループホームに預けられていることがわかる内容で、今まで以上に、利用者様を中心とした支援を継続して行い、高齢になり介護へつなぐ時、後悔をしない支援を目指して、職員一丸となって頑張っていきたいと思いました。

意見交換会は、当法人同士で行われ、様々な意見が聞ける機会になりました。

しかし、「高齢化」に対して育成会がどのように動くのかという答えは出ず、今現在、介護へつなげようとしている利用者様、数年後に生活介護を卒業する利用者様等々、当ホームでは、ご家族が高齢等、家庭環境が整っている利用者様が少ないこともあり、その時々で考え、対応するのでは遅く、早急に「高齢化」に向けた考え、指針を明確にしていくことが必要だと感じました。(佐世保市手をつなぐ育成会 共同生活援助事業所 ゆめホーム 管理者 安部 千里)



今回のフォーラムで印象に残ったことは、「高齢化に向けて」と「次世代につなげる取り組み」というテーマです。フォーラムの後半では、他の育成会の方々とグループワークを行い実際に生の声を聞くことができました。高齢化で言うと親御さん、ご本人を含めての高齢化をはじめ、親亡き後のご本人の生活はどうなるのか？お金のことや住まいの場、ご本人のキーパーソンの把握・連携など様々な準備が必要だということを改めて感じました。

また、ご本人が住みなれた地域で暮らし続けていくにはどうしたらいいのか？何が必要なのか？あくまでもご本人の思いや気持ち、希望を大切にしながら親御さんをはじめ、相談支援専門員や関係機関とも協力しながら支援をしていかなければいけないと強く感じました。(時津町手をつなぐ育成会 就労継続支援B型事業所エリア21 次長 坪田 汐遥)



全育連の新刊「家族はすったもんだ」販売！

全国手をつなぐ育成会連合会の機関誌『手をつなぐ』に連載中の4コマまんが「毎日すったもんだ」が単行本として出版されました。自閉スペクトラム症のある子の個性と向き合いながら、笑いあり涙ありの「すったもんだ」な家族の日常を、4コマまんがで切り取りました。学校、病院、外出など場面ごとのユニークなエピソードに、クスツツしたり、多様な個性を実感したり。解説付きで、かかわりの参考にもなる一冊です。

長崎県手をつなぐ育成会で取り扱い中。ご注文をお待ちしております。

○書 名：自閉スペクトラム症 マイペースなきみに家族はすったもんだ

○著 者：[監修]井上雅彦[編集]全国手をつなぐ育成会連合会

[イラスト]マリマリマーチOA5判・104ページ・オールカラー○定 価：1,430円(税込)

全国手をつなぐ育成会連合会全国大会福井大会

「育成会活動は立ち止まらない ～新たな一歩を福井から～」

令和4年度の全国大会は、11月20日(日)福井県で開催されました。コロナの影響で開催時間は2時間半、挨拶・表彰・祝辞のあと、中央情勢報告、大会決議採択、本人決議の読み上げが行われ、参加人数制限の中、長崎県育成会代表及び被表彰者として竹内会長が参加されました。

本人大会は、オンラインで「コロナに負けない! もっと本人活動を広げよう!」というスローガンのもと、2回開催されました。1回目は9月19日に「参加者の自己紹介、本人決議案に対する意見交換など」として、2回目は10月9日「本人決議の決定、オンラインによる本人大会への感想など」の内容でした。

長崎県からは島原市育成会の満丸明美さんが2回目に参加され、意見交換をしました。



全国手をつなぐ育成会連合会 表彰

福井県大会において、長崎県手をつなぐ育成会会長の竹内隆伯氏が表彰されました。竹内氏は、昭和 63 年頃から、任意団体島原市手をつなぐ育成会の理事として育成会活動に関わり、平成 12 年からは長崎県手をつなぐ育成会理事、平成 21 年から 28 年まで副会長、平成 29 年から会長として、知的な障がいのある人の福祉の質向上への貢献と育成会運動の推進に努められた功績により表彰されたものです。

啓発キャラバン隊研修会

10月12日に全国手をつなぐ育成会連合会主催で啓発キャラバン隊研修会が開催されました。今回は兵庫県たつの市役所では県内の方限定で対面実施すると同時に、全国各地からはオンラインでの参加もあるというハイブリッド方式での開催となりました。長崎からは「長崎よかよか隊」6名がオンラインで参加しました。

最初に話題提供として山形県のキャラバン隊「花笠ほーぷ隊」の方がどのようにして活動を広め、繋がりを作っていったかという話を、お2人で掛け合い漫才のように楽しく語ってくださいました。

シンポジウムでは全育連の田中専務理事をコーディネーターに迎え、たつの市の小学校長や行政の方が、それぞれのお立場で地元の役所や学校とどうやって繋がったかを話されました。

昼食休憩をはさみ午後からは「長崎よかよか隊」が師と仰ぐ「広島あび隊」の小学校向け疑似体験の披露、そして最後は参加したキャラバン隊をいくつかの班に振り分けてのグループディスカッションがありました。

全国各地には育成会単位のキャラバン隊だけでなく、法人職員で結成された隊や社会福祉協議会が中心になって活動している隊もあり、経験値はさまざまでしたが、それぞれに運営のやり方があり、とても勉強になりました。当日は映像や音声の一部乱れがあり、後日配信して対応していただきましたが、聞き取りにくい中にも各キャラバン隊の熱意は十分伝わって、中身の濃い研修となりました。(長崎市手をつなぐ育成会 吉井 裕子)

ご寄付いただきました

九州電力生活協同組合様より長崎県育成会事業へ

本年度も長崎県手をつなぐ育成会の障害者施策等に関連する事業が、九州電力が九州各県における社会貢献活動を支援する事業の一環として毎年行う寄付の趣旨に値すると認められ、九州電力生活協同組合長崎支部から令和3年度(対象:西彼大会)に続き2年連続でご寄付頂きました。育成会としてもその趣旨に沿う形で活用させて頂きたいと考えています。

写真:九州電力生活協同組合長崎支部 執行委員長 堀江信也氏(左)と県育成会 三村事務局長(撮影のためマスクを外しています)



第13回全国手をつなぐ育成会 権利擁護セミナー in 石川

令和4年11月1日 金沢市長土堀青少年交流センター

テーマ 「地域生活支援拠点事業について」

- ① 行政説明「地域生活支援拠点事業について」 講師：厚生労働省 松崎貴之専門官
- ② 「地域生活支援拠点」 講師：田中正博氏（全国育成会専務理事）
- ③ シンポジウム

「栃木くらしだいじネット」これまでの整備と今後について

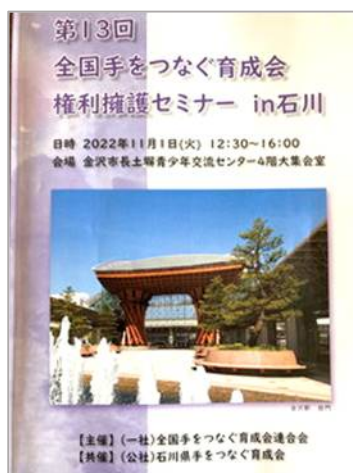
シンポジスト：栃木市障害福祉課係長 町田 江美氏

「拠点機能、あれこれ～地域で暮すことの課題とその解決に向けて」金沢市の取り組み

シンポジスト：金沢市基幹相談支援センター主任相談支援専門員 寺西 里恵氏

「拠点の機能あれこれ～地域で暮すことの課題とその解決に向けて～」

シンポジスト：社会福祉法人ゆうかり理事長 水流 源彦氏



前回の埼玉と同様、オンライン方式の開催となりました。今回のテーマは「地域生活支援拠点」についてでした。厚生労働省からの制度3年後の見直しについての講話と、シンポジウムは地域生活支援拠点事業について、3つの先進地の取り組みについての内容となりました。実際、地域生活支援拠点は全国的に令和3年4月1日時点で52%の実施率で、全国的に整備はなかなか進まないようです。

そんな中で、今回先進地の話を聞くことができ、大いに刺激を受けました。

まず栃木では、障害のある本人の情報を事前に登録することで、介護者が急病にかかった時など、障がいのある人が自宅で一人で過ごすことができなくなった場合などに利用できる緊急時支援事業「栃木くらしだいじネット」という体制

を、5つの拠点の機能とどう絡めて実効性の高いものにしていくのかという内容でした。

また、金沢モデルとして金沢市の基幹相談センターが拠点機能の中で果たす重要な役割として、「かなざわ安心プラン」があり、本人の日々の、そして将来望むくらしの実現につながるよう、支援する誰が見てもわかりやすいプラン作成を進めていくようです。また、緊急受け入れについては、「施設型緊急受け入れ・対応」と、それに加えこの10月から「派遣型緊急行受け入れ・対応」も新たに導入されたそうです。現在は区分認定もなく給付費を利用した訪問系サービスも利用できない場合に備え、拠点事業の依託費を利用した新しい取り組みとなっているようです。

また鹿児島では、多機能整備拠点型面的整備として、受託法人を中心に市内の16法人が協定し、誰もが住みたくなる機能性のある拠点施設の支援を24時間体制で支援を確保しています。どの地域の内容も専門家の専門性の高さを感じますが、共通しているのが障害者一人ひとりの対応をととても丁寧に捉えているところで、その点が大きな安心につながるのだと感じました。

今回紹介された活動は、どこも地域ぐるみの取り組みで、これこそインクルージョン社会、共生社会への第1歩だと感じました。それぞれにまだ積み残しの課題は多いようですが、確実な進展が実現しそうな気がします。

障がいのある人の誰もが世の中の片隅で孤立を強いられるような姿がなくなるよう、親なき後が各個人の課題ではなく、地域全体が取り組むべき当たり前の施策として、今後の充実発展を見守っていききたいものです。そして、各地域のより具体的な課題を地域育成会の立場で地域行政へしっかり声をあげていきたいものだと思います。（谷）

長崎県手をつなぐ事業所協議会の再編発足について

長崎県事業所協議会は県育成会の事業計画のひとつとして位置づけ、年1回会員事業所の状況報告と全国大会への参加を活動として行っていました。今般、上部組織である全国手をつなぐ事業所協議会が、令和3年4月1日に新規約に基づく組織として再発足、そして令和4年度より一般社団法人全国手をつなぐ育成会連合の一正会員として加入しスタートしています。それを受け県育成会としても、全国との連携を深めるため全国事業所協議会の組織及び規約を参考にして長崎県事業所協議会のあり方を以下のように検討いたしました。

1. ながさき地域福祉研究会(地域育成会のうち社会福祉法人格をもつ育成会の任意の組織
平成10年頃から7つの法人が加盟し、育成会としての社会福祉法人の運営などの協議・情報交換、下部組織として支援員部会(支援のあり方など研究)がある。
※この組織の目的と活動内容を、全国手をつなぐ事業所協議会を比較すると、ほとんど重なる内容であることが確認された。
2. 長崎事業所協議会の規約と全国事業所協議会の規約を比較検討した。
3. 上記1と2を検討、検証した結果、ながさき地域福祉研究会と長崎県事業所協議会2つの組織を統合し規約を整理し新たな組織として再編することが合意された。

※令和4年9月と12月に「旧ながさき地域福祉研究会」と「旧長崎事業所協議会」の臨時合同会議を開き、9月の会議で統合の合意、12月の会議で新規約を決議し、「長崎県手をつなぐ事業所協議会」として新組織を発足しました。

《現在の会員＝13事業所》

- * 長崎市: ①「さんらいず」(就労継続支援B型・就労移行支援) ②「陽香里工房」(生活介護)
③「夢工房みどり」(生活介護)
- * 佐世保市: ④「きらら」(生活介護・就労継続支援B型) ⑤「であいの家」(生活介護・就労継続支援B型)
⑥「のびのび」(生活介護・就労継続支援B型)
- * 島原市: ⑦「ネットワークセンターひかり」(就労継続支援B型)、
- * 諫早市: ⑧「つくし学園」(就労継続支援B型・就労定着支援) ⑨「ライフステーション」(就労継続支援B型)
- * 大村市: ⑩「大村さくらの家」(就労継続支援B型・就労移行支援)
- * 西海市: ⑪「互隣の家」(就労継続支援B型) * 時津町: ⑫「エリア21」(就労継続支援B型)
- * 五島市: ⑬「はまゆう作業所」(就労継続支援B型)

■令和4年12月8日に規約を決議、以下の役員を選任スタートしました。

会長: 竹内 隆伯(県会長) 副会長: 菅 敏洋(島原市育成会) 監事: 寺田 隆二(長崎市育成会)

知的障がい児者・自閉症児者の 生活サポートは 家族の安心を支えます

- 日常生活に関する相談支援
 - 就労に関する相談支援
 - 権利擁護に関する相談支援
- の3事業を実施しています。

当会にご入会いただくと、
知的障がい児者、自閉症児者のための
病気やケガの総合補償制度をご利用いただけます。

AIG損保の普通傷害保険

生活サポート総合補償制度

特定障害者福祉団体傷害保険特約、弁護士費用等補償特約、職業従事事故対応費用補償特約、地震・噴火・津波危険補償特約セット

保険のお問合せはこちら

■担当代理店・扱者

ジェイアイシー九州

〒810-0001 福岡市中央区天神4-6-7

天神クリスタルビル14階

TEL: 092-791-7561 FAX: 092-791-7562

受付時間: 午前9時～午後5時

(土・日・祝日・年末年始を除く)

■引受保険会社

AIG損害保険株式会社

<https://www.aig.co.jp/sonpo>

福岡支店

〒810-0041 福岡市中央区大名2-4-35 富士火災福岡ビル

TEL: 092-718-7000

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

主な補償内容

病気やケガで入院したとき
入院給付金

ケガをしたとき
死亡・後遺障害・入院・通院・手術 / 各保険金
(地震・噴火・津波によるケガも対象)

病気で死亡したとき
疾病葬儀費用保険金

賠償責任を負ったとき
個人賠償責任保険金

虐待・逮捕・勾留に対応するとき
弁護士費用等補償 ※プランによって補償します

就労中に他人にケガをさせたり
物を壊してしまったとき
職業従事事故対応費用補償 ※プランによって補償します

※上記は概要ですので詳細は下記までお問い合わせください。

ご入会のお問合せはこちら

ながさき知的障害児者生活サポート協会

〒852-8134 長崎市大橋町19-19

長崎市手をつなぐ育成会内

TEL: 095-845-5668 FAX: 095-845-5664

受付時間: 午前9時～午後5時(土・日・祝日・年末年始を除く)

2019年11月現在の内容です。(D-004329 2021-03)

第22回全国障害者スポーツ大会メダル獲得者（知的障害者のみ掲載）

令和4年10月29日～31日まで「夢を感動へ、感動を未来へ」をスローガンに栃木県で開催され、長崎県から個人競技31名と男女混合ソフトボール競技13名、聴覚バレーボール男子9名・女子10名が参加し、金メダル6個、銀メダル12個、銅メダル11個計29個を獲得しました。

競技種目	選手名	種目1	種目2
陸上競技	臼木 大悟	200m 第1位	100m 第1位
	西山 蓮	200m 第1位	100m 第2位
	村川 愛子	200m 第3位	100m 第3位
	大石 祥	上記3名	4×100m リレー第1位
水泳競技	武分 剛	25m 背泳ぎ第3位	50m 背泳ぎ第2位
	喜多 海舟	25m バタフライ第3位	
卓球競技	太田 歩美	一般卓球第1位	
	朝永 航	一般卓球第2位	
フライングディスク競技	琴岡 淳一		ディスク第2位
	中村 力	フリスビー第3位	ディスク第2位

全国障害者スポーツ大会に参加して

全国から都道府県・指定都市選手団約5,640人が集まり、長崎県代表団は個人競技31名、団体競技3競技33名、計64名が参加しました。

ボウリング競技には、齊藤祐二氏（ふれあいネットワーク・ピアありあけ）、山田茂樹氏（清香園長与店）、金谷圭晃氏（ワークショップあさひ）の3選手が出場。

選手は強化練習を重ねて現地入りし、試合当日には宿泊先近くの神社で必勝祈願、会場を下見して公式練習などに臨み、真剣な表情で最終調整し、サポートしてくれるボランティアの方と和やかなムードで触れ合いながら、障害者スポーツの祭典に備えました。試合当日は緊張もありましたが、一人ひとりが自分の力を発揮する事ができました。

私は監督として参加し、選手の競技前の緊張や競技後の安堵、メダル獲得が叶わなかった悔しさなどその表情を間近で見る事ができ、私自身も選手と同じように緊張し、安堵し、悔しさを感じました。また、ひたむきに一生懸命競技に臨む姿を見て、スポーツのすばらしさを体感し感動させていただきました。

大会は、障害のある方がスポーツを通じてスポーツの楽しさを体験する場であるとともに、全国にいる仲間との交流の場にもなりました。今回の結果がすべてではありません。この経験を糧にいつまでもスポーツのすばらしさを忘れないで欲しいと思います。



スローガンのように「この感動を未来へ」。来年は「燃ゆる感動 鹿児島大会」が10月28日～30日に開催されます。今大会終了後は、次大会に向け練習を再開していると思います。また、近いうちに選手のみなさまにお会いできることを楽しみにしています。最後に大会参加にあたり、ご支援・ご尽力いただいた関係者のみなさまに感謝申し上げます。（ボウリング競技監督：長崎市手をつなぐ育成会 佐藤 実）



ボウリング競技に出場した
（左から）齊藤さん・金谷さん・山田さん

《 長崎県手をつなぐ育成会行事のお知らせ 》 3月まで

行 事	月 日	場 所 及 び 主 催	概 要
無料法律相談	1月19日(木) 2月9日(木) 2月21日(火)	大村市郡地区公民館 第2会議室 五島市 福江総合福祉センター2階 波佐見町総合文化会館	(大村・波佐見) 13:00～14:00「保険のはなし」 (ぜんち共済・生活サポート協会) 14:10～15:50 講話・質疑 「障害者差別・虐待などの 悩み相談について」(後見含む) 弁護士 曾場尾 雅広氏 16:00～17:00 個別相談(なんでも可) (五島のみ) 13:00～14:40 講話・質疑 14:50～ 個別相談
障害理解啓発研修 (知的障害疑似体験)	1月21日(土)	島原市有明公民館 2階大ホール	13:00～16:30 本人・家族・支援者による 障害理解に関する事例発表 長崎市育成会障害啓発キャラバン隊 「長崎よかよか隊」による疑似体験
本人部会「長崎きずな」 連絡協議会	2月26日(日)	長崎県総合福祉センター	10:00～12:00 1年間の反省・次年度に向けて、 県への要望回答について
全国育成会フォーラム	3月上旬	全育連	事前収録配信方式
長崎県育成会理事会	3月10日(金)	長崎県総合福祉センター (会場変更の場合あり)	13:00～16:00 R3年度補正予算等 R4年度事業計画・予算等



「手をつなぐ」は、知的な障害のある当事者(本人・家族)に関しての教育・福祉・労働等々の諸施策を中心に、全国手をつなぐ育成会連合会が編集・発行している月刊誌です。文字どおり、全国の仲間が「手をつなぐ」ために役立つ情報誌です。 年間3,900円 B5版48ページ

長崎県手をつなぐ育成会までご連絡ください。

お申込みは TEL 095-846-8730 FAX 095-846-8738 へ

知的障がい・発達障がい、
ダウン症、
てんかんのある方、
ご家族に

病気やケガが絶えない…
成人病や生活習慣病に備えたい…
他人の物を壊してしまった…
虐待・雇用現場での差別など
人に相談しにくい悩みがある…

障がいのある方とご家族へ

ぜんちの
あんしん保険

少額短期保険(無償給付)2019年創設

- ・最高日額1万円
- ・個人賠償責任補償
- ・弁護士費用補償
- ・安心サポート

特別支援教育を必要とされている方へ

ぜんちの
こども傷害保険

福利厚生型傷害保険2019年創設

- ・入院・通院を日額保障
- ・個人賠償責任補償
- ・トラブルに巻き込まれた際、
弁護士がサポート

このようなお困り事に
心当たりがある方に…

詳しい資料のご請求・お問合せはこちら

弁護士が
全面的に
サポート



ぜんち共済株式会社

関東財務局長(少額短期保険)第14号

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-5 九段北325ビル4階

※ご契約にあたっては必ず「ご契約に際しての重要事項」「約款」東京海上日動の「重要事項説明書」をよくお読みください。ご不明な点等がある場合には、ぜんち共済株式会社までお問い合わせください。

【2020年1月作成 19-TC06633】

0120-322-150

平日9時～17時/土日・祝日・年末年始を除く
URL: <http://www.z-kyosai.com/>

取扱代理店(資料請求・その他お問い合わせ)

有限会社トータル・サービス

〒850-0033 長崎県長崎市万才町6-35 大樹生命長崎ビル5F

TEL: 095-827-7705 FAX: 095-832-2580